

第 37 回地方独立行政法人神戸市民病院機構評価委員会 欠席委員の意見

○前文

- ・最終段落に「市民及び患者に対して安全で質の高い医療」とあるが、1 段落目には「市民の生命と健康を守る」とある。市民という言葉を広義に捉えれば、健常者も患者も含まれるので、市民に表現を統一してはどうか。

○第 2-1-（1）救急医療・災害医療

- ・「初期救急医療から 3 次救急医療まで、各病院の役割に応じた救急医療の提供」とあるが、初期救急医療は主として地域の医療機関や急病診療所が担っている。神戸市全体の救急医療体制の役割分担のバランスを考慮した上での表現にすべきではないか。

○第 2-2-（1）中央市民病院の役割（救命救急）

- ・「あらゆる救急疾患から市民の生命を守る」とあるが、搬送されてきた段階で不可能なケースもある。現実により近い表現にした方が、読み手に響くのではないか。「あらゆる救急疾患に全力を尽くす」という意気込みを示してはどうか。

○第 2-3 西市民病院の役割

- ・兵庫区、長田区はとくに高齢者への対応が重要になっている地域と認識している。その観点を鑑みると、（4）認知症疾患への対応 と（5）生活習慣病患者への対応 がより上位に位置すべきではないかと考えるがどうか。

○第 2-4 西神戸医療センターの役割

- ・垂水区の患者さんが垂水区内の病院を選ばない場合、交通網の要素もあるが、西神戸医療センターより明石の基幹病院を受診する傾向があるとも言われている。市民病院としての対策も必要ではないか。

○第 2-5 アイセンター病院の役割

- ・「世界水準の眼科高度専門病院」とあるが、世界水準という修飾語により、医療を提供する対象が曖昧になってしまう。他の基幹病院・中核病院とは性質が異なる面はあるが、対象を市民とする記載が必要ではないか。

○第 3-1-（3）人材育成等における地域貢献

- ・「神戸市看護大学をはじめとした看護学生の受け入れに努め」とあるが、「神戸市内の看護学生」と記載することにより、神戸市内の看護学生を積極的に受け入れていくことを強調するべきではないか。

○第 4-2 経営基盤の強化

- ・経営基盤の強化についての徹底的合理化が記載されており、営利至上主義のような印象を受け、本来の目的である「安全で質の高い医療の提供」から遠ざかってしまい、患者さんへの不利益や職員のモチベーションの低下に繋がるのではないかと危惧される。